

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-215158

(43)Date of publication of application : 04.08.2000

(51)Int.Cl. G06F 15/00  
G06F 17/60

(21)Application number : 11-015173

(71)Applicant : NMC:KK

(22)Date of filing : 25.01.1999

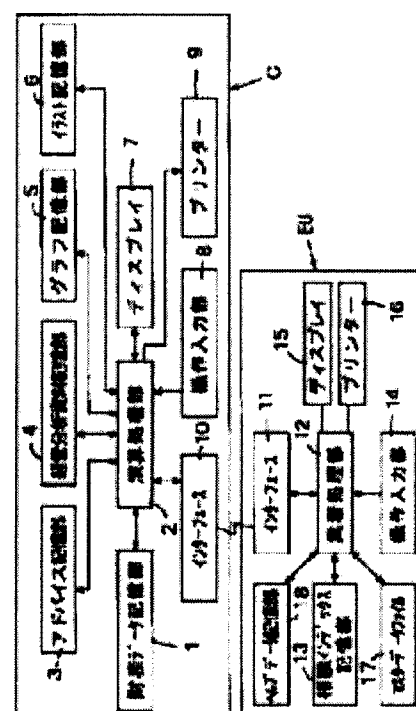
(72)Inventor : NOMOTO AKINORI

## (54) ACCOUNTING OPERATION SUPPORT SYSTEM

### (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To enable event a person who is not well acquainted with accounting operation and its operation processing program to efficiently run the operation processing program by equipping a help picture with indexes for help.

**SOLUTION:** A terminal machine EU displays an index selection picture for a comment on a display 15. In this picture, the index corresponding to a consultation item is selected and sent to the center machine C at an accounting office. An arithmetic processing part 2 on the center machine C calculates the constitution ratio of, for example, expenses to sales by using a calculation expression from a management analytic material storage part 4. Then a necessary graph is selected from a graph storage part 5 and the calculation result is represented on the selected graph. A proper comment is selected from the management analytic material storage part 4 and displayed on the display 7 together with the graph. The data are sent as a report to the terminal machine EU.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-215158

(P2000-215158A)

(43) 公開日 平成12年8月4日(2000.8.4)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	サーチコード(参考)
G 0 6 F 15/00	3 1 0	G 0 6 F 15/00	3 1 0 A 5 B 0 4 9
17/00		15/21	Z 5 B 0 8 5

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号 特願平11-15173

(22) 出願日 平成11年1月25日(1999.1.25)

(71) 出願人 592054487

株式会社エヌエムシー

東京都中野区本町2-46-1

(72) 発明者 野本 明伯

東京都中野区本町2-46-1 株式会社エ

ヌエムシー内

(74) 代理人 100076163

弁護士 嶋 宣之

Fターム(参考) 5B049 AA01 CC03

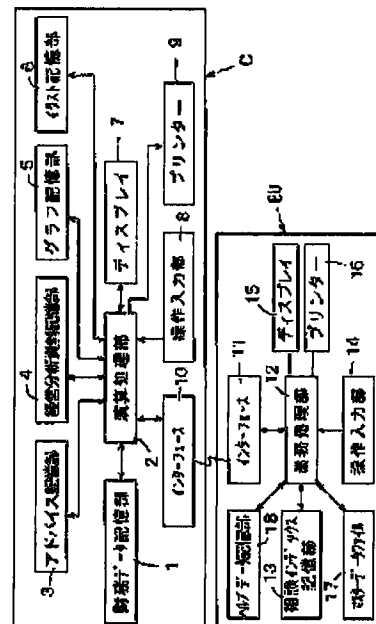
5B085 AA08 B507 CE09

(54) 【発明の名称】 会計業務サポートシステム

(57) 【要約】

【課題】 会計業務やその業務処理プログラムに関して熟知していない者でも、簡単に端末マシンを操作して、しかも、効率的に業務処理プログラムを実行できるようにし、また、センターマシン側において、経験豊かな専門家でなくても、経営情報を体系化したコメントやアドバイスを作成でき、顧客側が、簡単に相談ができるとともに、適切な回答を早く得られるようにすること。

【解決手段】 センターマシンCと端末マシンE Uとを通信回線で接続する。センターマシンCに、経営分析機能とその分析結果に対するコメントを備え、端末マシンには、上記コメントを特定するインデックスを備える。また、端末マシンCには、操作マニュアル内容を検索できるヘルプ画面を設けるとともに、特定の業務処理に関して、必要なマスターデータだけを入力するプロセスP1を備えた業務処理ナビゲーションプログラムを備えている。



(2)

特開2000-215158

1

2

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 サポートセンターに設けたセンターマシンと、このセンターマシンに通信回線によって接続された端末マシンとを備え、上記センターマシンは、種々の財務データを記憶する財務データ記憶部と、この財務データ記憶部に接続した演算処理部と、各種の経営分析の計算式を記憶するとともに、分析結果に対するコメントを記憶し、演算処理部の指令に基づいて、上記コメントを検索する機能を備えた経営分析資料記憶部とを備え、上記演算処理部は、経営分析の計算式を特定されるとき、財務データ記憶部から財務データを引き出して、その計算式に則って計算するとともに、上記コメントを特定する機能を備え、上記端末マシンは、業務処理部と、この業務処理部に接続し、上記コメントに対応するコメント用インデックスを記憶したコメント用インデックス記憶部と、マスターデータファイルとを備え、さらにこの端末マシンには、メイン表示画面と、これに対応したヘルプ画面と、ヘルプ画面のヘルプ用インデックスに対応した解説画面とを備え、ヘルプ画面は、メイン表示画面と同一または類似したヘルプ用イメージとヘルプ用インデックスとを備え、上記業務処理部は、業務処理プログラムと、業務処理ナビゲーションプログラムとを備え、上記業務処理プログラムと、上記業務処理ナビゲーションプログラムとがそれぞれ必要とするマスターデータの一部が共通であるとともに、上記業務処理ナビゲーションプログラムは、その業務処理をするために必要なマスターデータを入力するプロセスと、業務処理をするプロセスとからなり、上記マスターデータを入力するプロセスで入力したマスターデータをマスターデータファイルに自動的に入力する構成とし、さらに、上記端末マシンの業務処理部は、上記コメント用インデックス記憶部に記憶されたコメント用インデックスを選択してセンターマシンへ送信する機能を備え、上記端末マシンの業務処理部がコメント用インデックスをセンターマシンへ送信すると、上記センターマシンの演算処理部が、受信したコメント用インデックスに対応したコメントを特定して、上記経営分析資料部に指令を出力することを特徴とする会計業務サポートシステム。

【請求項2】 センターマシンの演算処理部に、アドバイス記憶部を接続し、このアドバイス記憶部は、人事、経理・税務、トップマネジメント等の分野に分類したアドバイスを記憶するとともに、演算処理部の指令に基づいてアドバイスを検索する機能を備え、端末マシンは、上記アドバイスに対応するアドバイス用インデックスを記憶したアドバイス用インデックス記憶部を備え、端末マシンの業務処理部は、上記アドバイス用インデックスを選択してセンターマシンへ送信する機能を備え、上記業務処理部が、アドバイス用インデックスをセンターマシンへ送信すると、上記センターマシンの演算処理部が、受信したアドバイス用インデックスに対応したアド

バイスを特定して、上記アドバイス記憶部に指令を出力することを特徴とする請求項1に記載の会計業務サポートシステム。

【請求項3】 サポートセンターに設けたセンターマシンと、このセンターマシンに通信回線によって接続された端末マシンとを備え、上記センターマシンは、演算処理部と、この演算処理部に接続したアドバイス記憶部とを備え、このアドバイス記憶部は、人事、経理・税務、トップマネジメント等の分野に分類したアドバイスを記憶するとともに、演算処理部の指令に基づいてアドバイスを検索する機能を備え、端末マシンは、上記アドバイスに対応するアドバイス用インデックスを記憶したアドバイス用インデックス記憶部を備え、上記端末マシンは、業務処理部と、この業務処理部に接続し、上記アドバイスに対応するアドバイス用インデックスを記憶したアドバイス用インデックス記憶部と、マスターデータファイルとを備え、さらに、この端末マシンには、メイン表示画面と、これに対応したヘルプ画面と、ヘルプ画面のヘルプ用インデックスに対応した解説画面とを備え、ヘルプ画面は、メイン表示画面と同一または類似したヘルプ用イメージとヘルプ用インデックスとを備え、上記業務処理部は、業務処理プログラムと、業務処理ナビゲーションプログラムとを備え、上記業務処理プログラムと、上記業務処理ナビゲーションプログラムとがそれぞれ必要とするマスターデータの一部が共通であるとともに、上記業務処理ナビゲーションプログラムは、その業務処理をするために必要なマスターデータを入力するプロセスと、業務処理をするプロセスとからなり、上記マスターデータを入力するプロセスで入力したマスターデータをマスターデータファイルに自動的に入力する構成とし、さらに、上記端末マシンの業務処理部は、上記アドバイス用インデックス記憶部に記憶されたアドバイス用インデックスを選択してセンターマシンへ送信する機能を備え、上記端末マシンの業務処理部がアドバイス用インデックスをセンターマシンへ送信すると、上記センターマシンの演算処理部が、受信したアドバイス用インデックスに対応したアドバイスを特定して、上記経営分析資料部に指令を出力することを特徴とする会計業務サポートシステム。

【請求項4】 端末マシンのヘルプ画面にはSOSマークを表示し、このSOSマークを選択すると、SOS信号が端末マシンからセンターマシンへ送信され、上記SOS信号は、上記端末マシンを特定する情報および上記SOSマークを表示したヘルプ画面に対応するメイン表示画面を特定する情報を備えたことを特徴とする請求項1～3のいずれか1に記載の会計業務サポートシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、センターマシン

(3)

特開2000-215158

3

4

と端末マシンとを接続するとともに、この端末マシンを用いて会計業務処理をしたり、センターマシンが、端末マシン側の経営に関する相談事項に回答したりする。会計業務サポートシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来から、関連する複数のコンピュータプログラムを利用して、会計業務処理を行ういろいろな会計処理システムがあった。例えば、給与計算プログラムや、所与計算プログラムなどを備え、各業務を機械的に処理するシステムがあった。このような会計処理システムの中で、会計事務所のセンターマシンと通信回線を介して接続した端末マシンを、顧客側に備えたものがある。このシステムでは、仕訳作業など、素人には難しい作業は会計事務所で処理してもらい、その結果データをセンターマシンから送信してもらうようにしていた。上記のように、会計事務所の顧客側では、端末マシンを利用することによって、会計業務を機械的に処理することが可能であった。このような状況のなかで、個々に処理された会計情報を、体系的にまとめることまで機械化している装置はなかった。

【0003】また、上記のようなシステムに備えられた複数の業務処理プログラムは、互いに関連性のあるもので、同一のマスターデータファイルのマスターデータを利用するようにしている。上記マスターデータとは、その業務処理プログラムが動作するために必要なデータで、このデータが予め入力されていなければ、上記業務処理プログラムが動作しないというものである。ただし、各業務処理プログラムによって、必要なマスターデータは異なる。つまり、動作させたい業務処理プログラムごとに、予め入力しておかなければならないマスターデータの種類も数も異なる。

【0004】そこで、複数の業務処理プログラムを備えたシステムであっても、実際に利用するプログラムがひとつであれば、まずは、その業務処理プログラムに必要なマスターデータだけを入力すればよい。ただし、マスターデータの入力画面というのは、業務処理プログラムごとに設定されているのではない。通常は、関連する全ての業務処理プログラムに対するマスターデータを、ひとつのマスターデータファイルで管理するようにしている。

【0005】そして、このひとつのマスターデータファイルに入力すべき個々のマスターデータが、どの業務処理プログラムを実行するときに必要なとされるかまで、その入力画面に指示されていない。そのために、業務処理プログラムを熟知していない人は、マスターデータの入力画面に表示されたすべてのデータを入力しなければ、どの業務処理プログラムも実行できないと勘違いしたり、特定の業務処理プログラムに必要なマスターデータを特定できなかったりして、入力画面に表示されたすべてのマスターデータを入力することが多くあった。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】上記のように、特定の業務処理プログラムを用いるためにも、マスターデータの入力画面に表示されたすべてのデータを入力していると、目的の業務処理プログラムをなかなか実行できなくなるという問題があった。また、マスターデータの入力画面に表示されたすべてのデータを入力しない場合、すなわち特定の業務処理プログラムの実行に必要なマスターデータだけを入力する場合でも、その業務処理プログラムに熟知していない人は、必要なマスターデータが何であるかが解らないために、必要なマスターデータを入力しなかったりして、それを実行できないということもあった。

【0007】このように、必要なマスターデータが入力されていないために、その業務処理プログラムが動作しなかった場合には、業務処理プログラムを一旦閉じて、必要なマスターデータの入力をし直さなければならない。しかし、実際には、マスターデータの入力をし直すのが面倒なので、結局、マスターデータ入力画面を表示して、ほとんどすべてのマスターデータを予め入力してから、業務処理にとりかかるというのが現状であった。そのために、実際にはその業務処理プログラムでは利用しないマスターデータまで、入力しなければならず、効率的な処理ができないこともあった。

【0008】また、上記のような端末マシンを操作する場合、その操作や会計用語を熟知していない人は、分厚い操作マニュアルを手にして、それを見ながらデータ入力などをしなければならない。この操作マニュアルには、操作方法の他、用語の説明など、その装置に関する説明が書かれている。詳細に書かれたものは、便利ではあるが、内容が多いため、非常に分厚い冊子となるので、通常、このようなマニュアルを始めから読むことはせず、必要な箇所だけを読み、実際に操作をしながら操作方法を覚えることが多い。しかし、分厚いマニュアルの中から必要な箇所を検索することはとても大変な作業であった。

【0009】さらに、今までの会計処理装置では、個々の会計情報を、総合化して経営情報としてまとめたり、解析したりすることができなかった。そのために、会計事務所の顧客が、経営情報に関する相談をした場合、事務所側では、経験豊かな公認会計士や税理士だけしか、答えることができなかった。言い換えれば、個々の会計処理の機械化が進みながら、それをまとめるとなると、能力ある限られた専門家にしかできないという問題があった。また、顧客側からすれば、会計事務所に経営に関する相談をしても、簡単には適切な回答をもらえないという状況であった。

【0010】この発明の目的は、会計業務やその業務処理プログラムに関して熟知していない者でも、簡単に端末マシンを操作して、しかも、効率的に業務処理プログ

(4)

特開2000-215158

5

ラムを実行できるようにすることである。また、別の目的は、センターマシン側において、経験豊かな専門家であっても、経営情報を体系化したコメントやアドバイスを作成でき、顧客側が、簡単に相談ができるとともに、適切な回答を早く得られるようにすることである。すなわち、上記の目的を達成することにより、顧客の会計業務を総合的にサポートするサポートシステムを実現できるのである。

【0011】

【課題を解決するための手段】第1の発明は、サポートセンターに設けたセンターマシンと、このセンターマシンに通信回線によって接続された端末マシンとを備え、上記センターマシンは、種々の財務データを記憶する財務データ記憶部と、この財務データ記憶部に接続した演算処理部と、各種の経営分析の計算式を記憶するとともに、分析結果に対するコメントを記憶し、演算処理部の指令に基づいて、上記コメントを検索する機能を備えた経営分析資料記憶部とを備え、上記演算処理部は、経営分析の計算式を特定されたとき、財務データ記憶部から財務データを引き出して、その計算式に則って計算するとともに、上記コメントを特定する機能を備えている。

【0012】一方、上記端末マシンは、業務処理部と、この業務処理部に接続し、上記コメントに対応するコメント用インデックスを記憶したコメント用インデックス記憶部と、マスターデータファイルとを備えるとともに、メイン表示画面と、これに対応したヘルプ画面と、ヘルプ画面のヘルプ用インデックスに対応した解説画面とを備え、ヘルプ画面は、メイン表示画面と同一または類似したヘルプ用イメージとヘルプ用インデックスとを備える。

【0013】また、上記業務処理部は、業務処理プログラムと、業務処理ナビゲーションプログラムとを備え、上記業務処理プログラムと、上記業務処理ナビゲーションプログラムとがそれぞれ必要とするマスターデータの一部が共通であるとともに、上記業務処理ナビゲーションプログラムは、その業務処理をするために必要なマスターデータを入力するプロセスと、業務処理をするプロセスとからなり、上記マスターデータを入力するプロセスで入力したマスターデータをマスターデータファイルに自動的に入力する構成とする。さらに、上記端末マシンの業務処理部は、上記コメント用インデックス記憶部に記憶されたコメント用インデックスを選択してセンターマシンへ送信する機能を備え、上記端末マシンの業務処理部がコメント用インデックスをセンターマシンへ送信すると、上記センターマシンの演算処理部が、受信したコメント用インデックスに対応したコメントを特定して、上記経営分析資料部に指令を出力する点に特徴を有する。

【0014】第2の発明は、第1の発明を前提として、センターマシンの演算処理部に、アドバイス記憶部を接

6

続し、このアドバイス記憶部は、人事、経理・税務、トップマネジメント等の分野に分類したアドバイスを記憶するとともに、演算処理部の指令に基づいてアドバイスを検索する機能を備え、端末マシンは、上記アドバイスに対応するアドバイス用インデックスを記憶したアドバイス用インデックス記憶部を備え、端末マシンの業務処理部は、上記アドバイス用インデックスを選択してセンターマシンへ送信する機能を備え、上記業務処理部が、アドバイス用インデックスをセンターマシンへ送信すると、上記センターマシンの演算処理部が、受信したアドバイス用インデックスに対応したアドバイスを特定して、上記アドバイス記憶部に指令を出力する点に特徴を有する。

【0015】第3の発明は、サポートセンターに設けたセンターマシンと、このセンターマシンに通信回線によって接続された端末マシンとを備え、上記センターマシンは、演算処理部と、この演算処理部に接続したアドバイス記憶部とを備え、このアドバイス記憶部は、人事、経理・税務、トップマネジメント等の分野に分類したアドバイスを記憶するとともに、演算処理部の指令に基づいてアドバイスを検索する機能を備える。端末マシンは、上記アドバイスに対応するアドバイス用インデックスを記憶したアドバイス用インデックス記憶部を備え、上記端末マシンは、業務処理部と、この業務処理部に接続し、上記アドバイスに対応するアドバイス用インデックスを記憶したアドバイス用インデックス記憶部と、マスターデータファイルとを備えるとともに、メイン表示画面と、これに対応したヘルプ画面と、ヘルプ画面のヘルプ用インデックスに対応した解説画面とを備え、ヘルプ画面は、メイン表示画面と同一または類似したヘルプ用イメージとヘルプ用インデックスとを備える。

【0016】また、上記業務処理部は、業務処理プログラムと、業務処理ナビゲーションプログラムとを備え、上記業務処理プログラムと、上記業務処理ナビゲーションプログラムとがそれぞれ必要とするマスターデータの一部が共通であるとともに、上記業務処理ナビゲーションプログラムは、その業務処理をするために必要なマスターデータを入力するプロセスと、業務処理をするプロセスとからなり、上記マスターデータを入力するプロセスで入力したマスターデータをマスターデータファイルに自動的に入力する構成とする。さらに、上記端末マシンの業務処理部は、上記アドバイス用インデックス記憶部に記憶されたアドバイス用インデックスを選択してセンターマシンへ送信する機能を備え、上記端末マシンの業務処理部がアドバイス用インデックスをセンターマシンへ送信すると、上記センターマシンの演算処理部が、受信したアドバイス用インデックスに対応したアドバイスを特定して、上記経営分析資料部に指令を出力する点に特徴を有する。

【0017】第4の発明は、上記第1～第3の発明を前

(5)

特開2000-215158

7

援とし、端末マシンのヘルプ画面にはSOSマークを表示し、このSOSマークを選択すると、SOS信号が端末マシンからセンターマシンへ送信され、上記SOS信号は、上記端末マシンを特定する情報および上記SOSマークを表示したヘルプ画面に対応するメイン表示画面を特定する情報を備え点に特徴を有する。

【0018】

【発明の実施の形態】図1～図9は、この発明の実施例を示したものである。図1に示すように、このシステムは、サポートセンターである会計事務所側に設けたセン

ターマシンCと、この事務所の顧客側に設けた端末マシンE1とを、それぞれのインターフェース10、11および通信回線を介して接続したものである。上記センターマシンCは、顧客の現在の財務情報、例えば、入出金、売上高、勘定科目の合計金額等々の情報を記憶している財務データ記憶部1を備えている。

【0019】ただし、この財務データ記憶部1は、それが単独に機能するコンピュータシステムであってもよいし、そのコンピュータシステムに接続された記憶装置であってもよい。いずれにしても、この財務データ記憶部1は、現在の財務情報が記憶されているものであれば、どのようなものであってもかまわない。この実施例では、端末マシンE1から通信によって送信されたデータである。上記財務データ記憶部1には、演算処理部2が接続され、この演算処理部2を介して、財務データ記憶部1に記憶されているデータのやりとりができるようにしている。また、この演算処理部2には、アドバイス記憶部3、経営分析資料記憶部4、グラフ記憶部5およびイラスト記憶部6も接続している。

【0020】経営分析資料記憶部4には、例えば、図2に示した「対売上高の構成比」などの財務分析のためのいろいろな計算式や、そのデータに応じたコメントおよびそれら各コメントごとのキーワードが登録されている。上記のように各コメントごとにキーワードを対応させたので、この登録されたキーワードによって、個々のコメントを選択できる。ただし、このキーワードを用いてコメントを選択するのは、演算処理部2を介してである。このようにキーワードを用いて選択されたコメントの内容は、ディスプレイ7に表示されるが、このとき操作入力部8を操作して、そのコメントの内容を加筆したり修正したりできるし、それを新たに登録することもできる。また、まったく新たなコメントを作成して、それを新規に登録することもできる。

【0021】さらに、コメントの修正や新規作成に応じて、キーワードも新たに登録できる。このように修正されたコメントや、まったく新たなコメントを、その都度、経営分析資料部4に記憶させられるので、当然のこととして、長年使用すれば、そのコメント数も増えることになる。この蓄積されたコメントが、まさにノウハウとなる。なお、このコメントやキーワードの加筆修正

8

や、それらの登録は、演算処理部2を介して行われる。【0022】また、上記アドバイス記憶部3は、送入用と個人用とに区分できる形態で、例えば図3に示すパターン分類に応じて、そのアドバイスを定型化し、記憶している。そして、上記アドバイス記憶部3には、各アドバイスごとのキーワードも登録され、この登録されたキーワードによって、個々のアドバイスを選択できるようにしている。ただし、このキーワードを用いてアドバイスを選択するのは、演算処理部2を介してである。このようにキーワードを用いて選択されたアドバイスの内容は、ディスプレイ7に表示されるが、このとき操作入力部8を操作して、そのアドバイスの内容を加筆したり修正したりできるし、それを新たに登録することもできる。また、まったく新たなアドバイスを作成して、それを新規に登録することもできる。

【0023】さらに、アドバイスの修正や新規作成に応じて、キーワードも新たに登録できること、上記経営分析資料部4の場合と同様である。したがって、前記したコメントの場合と同様に、長年の使用で、そのコメント数も増えることになる。なお、このアドバイスの加筆修正や、それらの登録は、演算処理部2を介して行われる。さらに、上記グラフ記憶部5は、例えば、円グラフ、棒グラフあるいは折れ線グラフなどのパターンを記憶し、演算処理部2で演算された財務データを最適なグラフを選択しながら表示できる。

【0024】一方、端末マシンE1は、インターフェース11に業務処理部12を接続し、この業務処理部12には、相談インデックス記憶部13を接続している。さらに、上記業務処理部12には、操作入力部14と、ディスプレイ15、プリンター16、マスターデータを記憶したマスターデータファイル17、操作マニュアル内容を記憶したヘルプデータ記憶部18が接続されている。

【0025】上記相談インデックス記憶部13には、上記会計事務所に対しての経営に関する相談事項を特定するためのインデックスが記憶されている。上記相談インデックス記憶部13に記憶されたインデックスには、二種類ある。ひとつは、経営分析に関するインデックスであり、他のものは、センターマシンCのアドバイス記憶部3に記憶しているパターン分類に対応するアドバイス用インデックスである。上記経営分析に関するインデックスは、上記センターマシンCの資料分析記憶部4で記憶しているコメントに対応するコメント用インデックスである。つまり、経営分析結果とそのコメントに対応するものである。例えば、「対売り上げ高の構成比」とか、「前年同期との比較」というような数式を特定するインデックスや、キーワード分類に対応するインデックスが含まれる。

【0026】上記アドバイス用インデックスは、例えば、「人事上のアドバイス」、「経理・税務上のアドバ

(6)

特開2000-215158

9

10

イス」、「営業上のアドバイス」などである。すなわち、上記相談インデックス記憶部13が、この発明のコメント用インデックス記憶部と、アドバイス用インデックス記憶部の両方の機能を兼ね備えている。そして、上記インデックスをディスプレイ15に表示させ、操作入力部14を操作することにより、必要なインデックスを選択して、センターマシンCへ送信する。なお、端末マシンE Uの業務処理部12は、上記インデックスとともに、その端末マシンE Uがどの顧客のものなのかわかる顧客データもセンターマシンCへ送信するようにしている。

【0027】また、上記業務処理部12には、図4に示す複数の業務処理プログラム20～24と給与計算ナビゲーションプログラム19を備えている。そして、上記業務処理プログラムおよび給与計算ナビゲーションプログラム19は、マスターデータファイル17内のマスターデータを利用して業務処理を行うプログラムである。上記業務処理プログラムには、給与計算プログラム20、賞与計算プログラム21、住民・源泉所得税プログラム22、年末調整プログラム23、その他の処理プログラム24がある。

【0028】これら、給与計算プログラム20、賞与計算プログラム21、住民・源泉所得税プログラム22、年末調整プログラム23、その他の処理プログラム24は、それぞれ、必要なマスターデータを上記マスターデータファイル17に記憶させてから、実行するようにしている。また、上記給与計算ナビゲーションプログラム19は、マスターデータを入力するマスターデータの入力プロセスP1と、給与計算を行うプロセスP2とからなる。給与計算のプロセスP2は、上記業務処理プログラム2の給与計算プログラム20と同じ計算処理をするプロセスである。そして、プロセスP1は、プロセスP2での給与計算を実行するために必要なマスターデータを、予め入力するプロセスである。なお、この給与計算ナビゲーションプログラム19が、この発明の業務処理ナビゲーションプログラムである。

【0029】以下に、このシステムの作用を説明する。このシステムにおいて、端末マシンE Uでは、通常の会計業務処理のほか、会計事務所への経営相談ができるようになっている。ここでは、経営相談について説明する。そして、初めに、センターマシンCで、経営分析を行ってコメントを作成する場合を説明する。端末マシンE Uは、相談システムを立ち上げて、ディスプレイ15に、図5のコメント用インデックス選択画面25を表示する。このコメント用インデックス選択画面25から、相談事項に対応するインデックスを選択する。ここでは、大分類26から「対売上高の構成比」と、細分類27aから「交際費」を選択した場合について説明する。さらに、細分類27b、27cが表示されているので、必要期間を選択し、現在の状況として、「赤字」、「黒

字」、「横バイ」、「下降」などの中から「赤字」を選択したとする。

【0030】以上、全ての分類項目によってコメント用インデックスが構成される。これらを選択したら、画面下方に表示された送信キー28をクリックすると上記コメント用インデックスが相談事項として、会計事務所のセンターマシンCに送信される。この際、会計事務所へ送信するコメントを追加したい場合には、図5の画面下方に表示されたコメントキー29をクリックする。コメントキーをクリックすれば、コメント入力画面が表示されるので、その画面に追加のコメントを入力してから、送信キー28を再びクリックする。このようにして、相談インデックス、およびコメントをセンターマシンCへ送信する。

【0031】会計事務所のセンターマシンCが、上記コメント用インデックスを受信したら、演算処理部2は、顧客データによって、誰からの相談なのかを特定するとともに、その相談が法人用なのか、個人用なのかを判断して記憶する。ただし、法人用と個人用とは、コメントやアドバイスの内容が異なるだけで、その演算処理の体系はすべて同じである。

【0032】今、センターマシンCは、端末マシンE Uから送信されたコメント用インデックスに基づいて、対応するコメントを特定するが、その手順は次の通りである。まず、センターマシンCが端末マシンE Uからの送信信号を受信すると、演算処理部2は、その受信信号に基づいて、上記のように顧客が要求した対売上高構成比を演算するための演算式を選択する。次に、上記演算処理部2には、受信した上記コメント用インデックスに基づいて、科目としての「交際費」と、「必要期間」が自動的に入力される。

【0033】このように、必要なデータが入力されると、演算処理部2が、財務データ記憶部1に記憶されている売上高および交際費の中から必要期間内のものを選択して、その合計額を自動的に計算する。必要期間内の売上高と交際費を自動的に計算したら、演算処理部2が、経営分析資料記憶部4からの計算式を用いて、交際費の対売上高構成比を計算する。次に、グラフ記憶部5から必要なグラフを選択すれば、演算処理部2が、上記計算結果を、選択されたグラフ上に表露する。上記の計算結果とそのグラフとが、図6に示すように、ディスプレイ上に表示される。

【0034】この画面に、上記の計算結果に対するコメントを表示する。このコメントの内容は、定型化されて経営分析資料記憶部4に記憶されている。これらコメントは、所定のキーワードによって分類されている。例えば、図2に示すように、「赤字」「黒字」「成長」「横バイ」「下降」といったように分類されている。この実施例では、端末マシンE Uから「赤字」というインデックスが送信されたので、上記演算処理部2は、「赤字」

(7)

特開2000-215158

11

というキーワードからコメントを選択する。

【0035】このようにすると、赤字の会社を前提にしながら、売上高と交際費との関係を説明した定型的なコメントがいくつか列挙される。したがって、その列挙されたコメントの中から、会計事務所側の判断で最も適切なものを選択する。適切なコメントを選択すれば、それが、図6に示すように、上記グラフとともに、一画面に表示される。このデータを報告書として、端末マシンCへ送信できる。あるいは、プリンター9でプリントアウトして、顧客に送ることもできる。また、顧客に送る報告書の中に、適当なイラストを加えたければ、イラスト記憶部6からそれを選択すればよい。

【0036】なお、定型的なコメントの中に適切なものがなければ、まったく新たなコメントを作るか、あるいは既存のコメントを加筆修正すればよい。そして、このように加筆修正したものや、新たに作ったものは、キーワードとともに、経営分析資料記憶部4に登録しておくこともできる。上記実施例では、顧客側で、コメント用インデックスとして、大分類インデックスのほか、細分類インデックスを複数組み合わせるようになっているが、インデックスの分類の仕方は、この実施例に限らない。

【0037】例えば、ひとつのコメントに、ひとつのインデックスを対応させておいてもよい。ただし、この場合には、コメントの数に応じたインデックスを備えなければならないので、インデックスが多くなるという不便さが残る。また、センターマシンC側ですでに明らかなデータ、例えば、特定の顧客に対する黒字だとか赤字などのデータは、会計事務所であるセンターマシンC側ですでに入手しているデータなので、それを端末マシンE側から特定する必要がない。したがって、このようなデータのインデックスは、必ずしも送らなくてもよい。

【0038】また、経営分析とは必ずしも関係ないけれど、トップマネジメントや人事などのアドバイスをしてもらいたい場合がある。この場合に、端末マシンE側では、アドバイス用インデックスを選択する画面を表示する。このアドバイス用インデックスの選択画面には、図3に示した分類を特定するインデックスが表示される。例えば、パターン分類に対応する、大分類インデックスの中から、モチベーションを選択すると、そのモチベーションに関する細分類のインデックスが表示される。この細分類のインデックスは、図3のキーワードに対応するものである。そして、これらの中から、細分類インデックスを選択して、同一インデックスをセンターマシンCへ送信する。ここで送信した、大分類と、細分類の両方のインデックスで、この発明のアドバイス用インデックスを構成している。ただし、アドバイスを引き出すためのインデックスも、上記のように、大分類、細分類というように、分けて設けなくてもよいこと、前記した場合と同様である。

12

【0039】一方、センターマシンCのアドバイス記憶部3では、上記アドバイス用インデックスに対応したパターンやキーワードによって、アドバイスを分類して記憶している。そこで、演算処理部2は、入力されたアドバイス用インデックスに基づいて、それに対応するアドバイスを検索する。そして、このアドバイスを、端末マシンE側に送信したり、プリントして顧客に送付したりできる。

【0040】以上のように、この実施例では、センターマシンCが、定型的なコメントやアドバイスを記憶していて、端末マシンE側からの送信されたコメント用あるいはアドバイス用インデックスに基づいて、そのコメントやアドバイスを検索できるようにしている。したがって、端末マシンE側がコメント用あるいはアドバイス用インデックスを送信すれば、センターマシンCの演算処理部2が動作して、コメントやアドバイスを検索し、その内容を会計事務所が判断する。そして、その内容でよければ、自動的に端末マシンE側に送信することができる。もし、会計事務所側から特別なアドバイスが必要ならば、その内容を加筆修正して送ることもできる。

【0041】いずれにしても、コメントやアドバイスの内容を蓄積して、それを自由に選択できるので、ある程度の経営分析能力がある人であれば、適切なコメントやアドバイスを選択したり、修正したりすることができる。例えば、全くの白紙の状態から、経営分析の報告書などを作成しようとするとき、かなりハイレベルの能力が必要とされる。しかし、このシステムで、ある程度のたたき台を作成してしまえば、それを修正したりするのは、それほどハイレベルの能力を必要としない。言い換えれば、このシステムを使用すれば、高度な専門知識を備えていなくても、経営分析などをすることができる。

【0042】このように、会計事務所側でのコメントおよびアドバイスの作成が容易になれば、顧客への対応が迅速になり、顧客側の満足度も上がる。なお、上記実施例では、経営分析に関わるコメントと、その他のアドバイスの両方を引き出せるようにしているが、どちらか一方だけでもかまわない。

【0043】次に、端末マシンE側を操作して、顧客側で、会計処理を行う場合を説明する。この端末マシンE側では、図4に示したように、上記業務処理部12に備えた業務処理プログラムおよび給与計算ナビゲーションプログラム19を用いて、様々な処理ができる。端末マシンE側において、会計処理システムを立ち上げると、ディスプレイ15には、図7に示すようなメニュー画面30が表示される。図7のメニュー画面30では、上記端末マシンE側で処理できる項目を、タグ31に表わしている。このタグ31には、給与計算、貸与計算、有給管理、・・・などの項目が表示されている。上記タグ31は、それぞれカードに付けられたもので、各カードには、各項目別のメニューが表示されている。



(8)

特開2000-215158

13

14

【0044】上記メニュー画面30では、上記全カードが、重なっているように表示されている。そして、これらの中から、処理したい項目を選択すると、そのタグ31が付いているカードが一番上に乗ったように表示されるようにしている。図7は、社員設定のタグ31aを選択した状態で、タグ31aがついたカードのメニュー32が表示されている。例えば、タグ31bを選択すれば、上記給与計算プログラム20が立ち上がり、タグ31cの「給与ナビ」を選択すると、上記給与計算ナビゲーションプログラム19が立ち上がり、それぞれのメニューが表示されるようにしている。

【0045】上記「社員設定」とは、給与計算などを行う時に必要な基本的なデータである社員の個人情報などを入力するところである。しかし、上記端末マシンE1を熟知していない顧客の場合には、この「社員設定」は、何をするためのものか解らないことがある。そこで、この「社員設定」のところで、どのような処理を行うのかを知りたい場合には、上記メニュー32を表示した状態で、メニュー画面30の下方に表示されているヘルプキー33をクリックするか、F1キーを押す。すると、メニュー画面30の代わりに、図8に示すヘルプ画面34が表示される。このヘルプ画面34は、図1のヘルプデータ記憶部6から引き出されたデータである。そして、先のメニュー画面30が、このヘルプ画面34に対応するこの発明のメイン表示画面となる。

【0046】上記ヘルプ画面34には、上記メニュー画面30を縮小した、ヘルプ用イメージ35が表示される。また、このヘルプ画面34には、図7のメニュー画面30の表示に対する解説のヘルプ用インデックス36や、37a、37bが表示されている。図8のヘルプ用インデックス36は、図7のメニュー32内の各項目に付けられたもので、ヘルプ用インデックス37a、37bは、メニュー画面30の下方に表示されたファンクションキーに対応したインデックスである。上記ファンクションキーのうち基本的な機能をもつもの基本キーと呼び、それらをまとめて、ヘルプ用インデックス37aを付けている。その他のキーで、各画面によって機能したりしなかったりするキーをまとめて、それにヘルプ用インデックス37bを付けている。

【0047】そして、ヘルプ用イメージ35の対応する箇所からヘルプ用インデックス36や37a、37bまでを引出線38で結んでいる。これは、上記各インデックス36、37a、37bが、図7のメニュー画面30のどの項目に対応するかをわかりやすくするためである。なお、複数の項目をまとめて、グループ毎に1本の引出線38を付けているが、項目毎に引出線を設けてもかまわない。

【0048】また、各インデックス36、37a、37bの頭には、「●」からなるクリックマークを付けている。そして、このクリックマーク「●」をクリックする

と、各インデックス36、37a、37bに対応した解説画面が表示される。例えば、社員情報設定のクリックマーク36aをクリックすると、「社員情報設定とは、社員の個人情報を入力するところです。・・・」というような内容を表示する解説画面が表れる。また、基本キーのクリックマーク37aをクリックすれば、基本キーである「ESC終了」キーやヘルプキーの使い方が表示される。このように、知りたいヘルプ用インデックス36、37a、37bのクリックマークをクリックすることで、そのヘルプ用インデックスに対応した解説画面を表示することができる。

【0049】さらに、上記ヘルプ画面34には、画面の右下方に、「操作の手順」、「操作の注意とポイント」を表示するヘルプ用インデックス39、40も表示される。これらのインデックス39、40をクリックすると、その解説が表示される。上記「操作の手順」とは、処理を行う手順のことで、例えば、特定の項目から処理を行なった方が、効率が良いというようなことがあれば、そのことが表示される。また、上記「操作の注意とポイント」には、各処理を行う上での注意事項が含まれる。上記「操作の手順」、「操作の注意とポイント」は、対応するメイン表示画面に関する解説であるが、メイン表示画面中に表示されている個々の項目の意味を解説するのではなく、操作に関する解説である。

【0050】上記のようにして、ヘルプ画面34から各項目の解説画面を表示することができる。そのため、実際の業務処理を行う前に、どの項目がどんな処理に対応するものか、あるいはどのような注意が必要なのかなど、マニュアルがなくても、画面で確認できる。しかも、ヘルプ画面には、対応するメイン表示画面に関するヘルプ用インデックスだけを表示しているのので、必要なヘルプ用インデックスを選択し易い。従来のように、全てのキーワードの中から検索する場合と比べて、非常に検索が簡単である。特に、実際の操作中の表示画面に対応したヘルプ用イメージを表示して、このヘルプ用イメージのポジションとヘルプ用インデックスとを関連付けているので、知りたい解説のヘルプ用インデックスをすぐに選ぶことができる。

【0051】上記のようなヘルプ画面は、どのメニュー画面や、どのデータ入力画面にも備えることができる。例えば、図9は、データ入力画面に対応するヘルプ画面41である。このヘルプ画面41は、図示しない社員情報の入力画面に表示されたヘルプキーをクリックすることによって、表示されたものである。このヘルプ画面41には、対応するメイン表示画面である上記データ入力画面を縮小して表わしたヘルプ用イメージ42と、各項目に対応したヘルプ用インデックス43と、ファンクションキーに対応させたインデックス37a、37bとが表示されている。そして、各ヘルプ用インデックスとその対応箇所とを引出線38で結んでいる。

(9)

特開2000-215158

15

【0052】このヘルプ画面41において、ヘルプ用インデックス43のうち社員個人情報のクリックマーク43aをクリックすると、ヘルプ画面41内に、新たに、解説画面44が表示される。この解説画面44内に、社員個人情報の解説が表示されている。同様に、他のインデックスを選択しても、上記解説画面44と同様に、そのインデックスに対応した解説画面が表示されるようにしている。なお、先に説明した図8のヘルプ画面34でも、インデックスのクリックマーク「●」をクリックすると、上記解説画面44と同様の解説画面が表示されるようになってい

【0053】このように、データ入力画面から、ヘルプ画面41を表示することによって、データ入力をしながら、その画面に関する解説を見ることができる。そして、上記ヘルプ用インデックス43、37a、37bは、ヘルプ用イメージ42を利用して、その対応位置がわかるようになってい

【0054】さらに、上記ヘルプ画面41の右下方には、「操作の手順」、「操作の注意とポイント」、「Q&A」、「帳票印刷」のヘルプ用インデックス39、40、45、46と、SOSマーク47が表示されている。上記「操作の手順」39、「操作の注意とポイント」40は、先に説明したヘルプ画面34内での機能と同様の機能を果たすもので、ここでは、詳細な説明は省略する。上記「Q&A」45をクリックすると、Q&A形式で、上記データ入力画面に

【0055】上記SOSマーク47は、会計事務所のセンターマシンCに、後で説明するSOS信号を送信するキーになる。このSOSマーク47の使い方を以下に説明する。例えば、データ入力画面を表示して、データを入力している途中で、入れるべきデータや、そのデータの入れ方がわからなくなったときには、まず、ヘルプキー

16

をクリックする。そして、図9のヘルプ画面41を表示し、このヘルプ画面41内のヘルプ用インデックス43や「Q&A」45から解説画面を表示させ、解説を参照する。それでも、疑問が解決しない場合に、上記SOSマーク47をクリックする。

【0056】このSOSマーク47をクリックすると、端末マシンEUの業務処理部12（図1参照）は、インターフェイス11を介して、SOS信号を会計事務所のセンターマシンCへ送信する。上記SOS信号には、送る端末マシンEUかを特定する情報と、このヘルプ画面41に対応するメイン表示画面を特定する情報とが含まれている。すなわち、このSOS信号が送信されれば、センターマシンCを備えた会計事務所では、どの顧客の端末マシンEUからそのSOS信号が送信されたのかわかる。それとともに、顧客がどの画面を表示していたときに、上記SOSマーク47をクリックしたのかわかる。そして、会計事務所では、上記SOS信号を受信したら、会計事務所側から顧客に対して、電話や、電子メールを利用して答えるようにしている。この際、SOS信号を送信した処理段階があらかじめ解っている

【0057】このように、顧客は、自ら電話しなくてもよく、会計事務所側の電話による回答を待つだけでよい。しかも、会計事務所側では、質問分野を予測して電話できるので、適切な担当者を選べるとともに、受け答えが適切かつ迅速にできる。また、操作が解らない人が、自分から電話をして、解らない部分の説明をするのは、ややもすると引込み思案になりがちである。しかし、SOSマーク47をクリックするだけで、後は、会計事務所側の連絡を待つだけなので、自ら電話するよりも、気持ちの上で多少楽になる。

【0058】上記のように、ヘルプ画面での操作マニュアル内容を検索したり、SOS信号を利用したりすることで、端末マシンEUの操作は誰にでもできるようになる。このように端末マシンEUの操作ができるようになっても、特定の業務処理プログラムを動作させるのに必要なマスターデータがどれなのか、というような判断ができなければ、必要なマスターデータだけを入力する効率の良い処理は難しい。この発明の業務処理ナビゲーションプログラムを用いれば、端末マシンEUの機械操作や、会計処理業務に関して、まだ、熟知していない者でも、必要なマスターデータだけを入力して、効率良く業務処理ができる。その方法を以下に説明する。

【0059】まず、図7に示すメニュー画面30で、タブ31cをクリックすると、図4に示した給与計算ナビゲーションプログラム19が立ち上がる。この給与計算ナビゲーションプログラム19が立ち上がると、ディスプレイ15には、データの入力画面が表示される。顧客

(10)

特開2000-215158

17

は、画面表示に従って、データを入力する。ここで入力するデータは、給与計算に必要な会社情報と社員情報の二種類のデータである。会社情報とは、給与の支払日や、支給項目、控除項目など、会社ごとに設定する情報であり、社員情報とは社員個人に関わる情報である。ただし、ここでは、どちらの情報についても、給与計算に必要なデータのみを入力するようにしている。

【0060】顧客は、次々に表示される上記会社情報や社員情報の入力画面に、データを入力する際に、ディスプレイ15に表示されたデータ入力画面の各項目の意味が分からなければ、正しいデータを入力することができないが、そのような場合には、先に説明した図9のようなヘルプ画面を表示することができる。このヘルプ画面は、データを入力しようとしていたデータ入力画面に対応するもので、データ入力画面をそのまま縮小したヘルプ用イメージが表示され、各項目にヘルプ用インデックスを対応させている。そして、各ヘルプ用インデックスによって、必要な解説画面を表示できる点は、図9のヘルプ画面41とまったく同じなので、ここでの説明は省略する。

【0061】上記のようにして、時には、ヘルプ画面の助けを借りながら、次々に表示される入力画面にデータを入力していけば、必要な会社情報および会社情報の入力終了する。以上のようにして、入力した会社情報および社員情報は、マスターデータとして、自動的にマスターデータファイル17に入力される。これで、給与計算ナビゲーションプログラムのプロセスP1が終了する。この段階で、給与計算に必要なマスターデータの入力完了する。上記のように、画面の指示に従ってデータを入力するだけで、誰でも必要なマスターデータだけ

【0062】次に、プロセスP2で、給与計算プログラムが動作する。顧客は、表示された画面に従って個々のデータを入力すれば、給与計算が終了する。このプロセスP2においてデータを入力する際にも、必要ならば、ヘルプ画面や解説画面を表示させて、操作の助けにすることができる。このように、給与計算ナビゲーションプログラム19を利用すれば、プロセスP1において、給与計算に必要なマスターデータだけを入力して、給与計算をすることができる。しかも、給与計算のために入力したマスターデータは、マスターデータファイル17にも入力されているので、他の業務処理プログラムを実行する際にも、利用することができる。

【0063】上記給与計算プログラム以外の個々の業務処理プログラムを実行するためには、上記給与計算ナビゲーションプログラム19で入力したマスターデータ以外にもマスターデータが必要な場合がある。そのときには、新たにマスターデータを入力しなければならないが、給与計算で用いるマスターデータと共通のデータは入力する必要がない。また、給与計算を行う際に、上記

18

給与ナビゲーションプログラム19を利用せずに、給与計算プログラム20を利用しても同じ処理ができる。この場合には、図7のメニュー画面30のタグ31bを選択して、上記給与計算プログラム20を立ち上げる。しかし、この場合には、マスターデータを入力する際に、自分でその要・不要の判断ができなければ、全てのマスターデータを入力することになる。

【0064】これに対し、上記給与計算ナビゲーションプログラム19を用いて給与計算をすれば、マスターデータの要・不要を判断することなく、効率よくデータ入力ができ、給与計算もできる。上記のようにして、一度、給与計算をしたら、次からは、給与ナビゲーションプログラム19を利用せずに、給与計算プログラム20を利用すれば、マスターデータを入力するプロセスP1を省略できるので、給与計算全体の時間が短縮される。

【0065】そして、給与計算は、会計処理業務の中では、最も基本になる業務であるとともに、そのマスターデータの多くは、他の処理業務、例えば、賞与計算や、住民・源泉所得税の計算にも利用できるものがほとんどである。なお、上記実施例では、給与計算についてナビゲーションプログラムを備えたが、どのような処理業務に関する業務処理ナビゲーションプログラムを備えてもかまわないし、複数の業務処理ナビゲーションプログラムを備えてもかまわない。ただし、上記実施例の給与計算というような他の業務処理との関連で、基本的であるとともに、特に重要な業務処理に関して業務処理ナビゲーションプログラムを備えれば、初心者でも、簡単に、基本となる処理ができる。また、このような基本的な業務処理のマスターデータができあがれば、このマスターデータをそのほかの業務処理にも利用できる。したがって、業務全体が効率化される。

【0066】以上のように、この発明の会計業務サポートシステムによれば、機械操作や、会計業務についての知識が、それほど無い顧客でも、端末マシンを操作して、効率のよい業務処理ができる。また、経営に関する相談も、通信を利用して、気軽にでき、素早く適切な回答を得ることもできる。

【0067】なお、上記実施例では、操作マニュアル内容に対応するヘルプデータを、端末マシンE Uのヘルプデータ記憶部18に設定しているが、センターマシンCに、端末マシンE Uのマニュアル内容を記憶したヘルプデータファイルを備えておけば、顧客側の端末マシンE Uには、全ヘルプデータを記憶させなくてもよい。必要に応じて、センターマシンCのヘルプデータファイルから引き出したヘルプデータを端末マシンE Uに設定することもできる。また、端末マシンE Uの処理プログラムがバージョンアップなどで、変更になった場合にも、通信によってヘルプデータを各端末マシンE Uに設定することができる。

【0068】

(11)

特開2000-215158

19

【発明の効果】第1～第4の発明によれば、業務処理ナビゲーションプログラムを利用して、特定の処理を行う際に、そのプログラムを熟知していない人でも、マスターデータのうち、その処理に必要なマスターデータだけを入力しながら、業務処理をすることができる。また、業務処理ナビゲーションプログラムによって、業務処理を行うと、そのときに入力したマスターデータは、自動的にマスターデータファイルに入力され、他の業務処理にも利用できる。

【0069】特に、会計業務における給与計算のように、互いに関連する業務処理のうち、他の業務との関連で基本的な業務があれば、その業務に関する業務処理ナビゲーションプログラムを備えれば、さらに業務が効率化できる。また、端末マシンのユーザーは、操作手順などの解説のインデックスをメイン表示画面に対応したヘルプ画面のなかから選択することができるので、分厚いマニュアルや、多くのキーワードのなかから検索する場合とくらべて、マニュアル内容の必要な部分を簡単に検索できる。さらに、必要なときにだけ解説画面を表示すればよいので、不要部分を多く含んだ分厚いマニュアルを持つ必要がない。

【0070】そのうえ、サポートセンターが、顧客からの通信による相談に対して、経営分析結果に応じたコメントや、経営分析とは直接関係のないアドバイスを作成して、それらを端末マシンへ送信できる。その際、サポートセンターでは、定型化されたコメントやアドバイスを利用することができるので、財務や、経営の専門家でなくても、適切なコメントやアドバイスを作成できる。そのため、端末マシンを備えた顧客側では、通常の会計処理業務だけでなく、経営相談もでき、総合的なサポートをタイミング良く受けることができる。特に、第4の発明によれば、顧客が、端末マシンの操作などが解らなくて困ったときに、サポートセンターへ自動的にSOS信号を送信することによって、より簡単にサポートを受けることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の会計業務サポートシステムの、実施例のブロック図である。

【図2】この実施例のコメントに到達するために選択し\*

\*なければならない項目とその選択順位を示した図である。

【図3】この実施例のアドバイスを特定する分類を示した図である。

【図4】この実施例の端末マシンの業務処理部が備えているプログラムを表した図である。

【図5】この実施例で、端末マシンからアドバイス用インデックスを選択する画面である。

【図6】この実施例で、センタマシンで作成した経営分析結果およびコメントを表示した画面である。

【図7】この実施例のメニュー画面を表した図である。

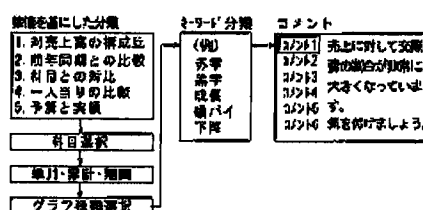
【図8】図7の画面に対応するヘルプ画面である。

【図9】データ入力画面に対応するヘルプ画面である。

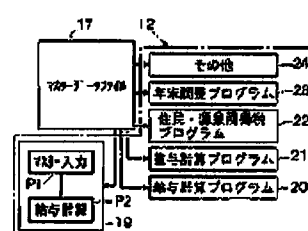
【符号の説明】

C	センターマシン
EU	端末マシン
1	財務データ記憶部
2	演算処理部
3	アドバイス記憶部
4	経営分析資料記憶部
12	業務処理部
13	相談インデックス記憶部
17	マスターデータファイル
19	給与計算ナビゲーションシステム
20	給与計算プログラム
21	賞与計算プログラム
22	住民・源泉所得税プログラム
23	年末調整プログラム
24	その他のプログラム
P1	マスターデータを入力するプロセス
P2	給与計算プロセス
34、41	ヘルプ画面
35、42	ヘルプ用イメージ
36	ヘルプ用インデックス
37 a、37 b	ヘルプ用インデックス
43	ヘルプ用インデックス
44	解説画面
47	SOSマーク

【図2】



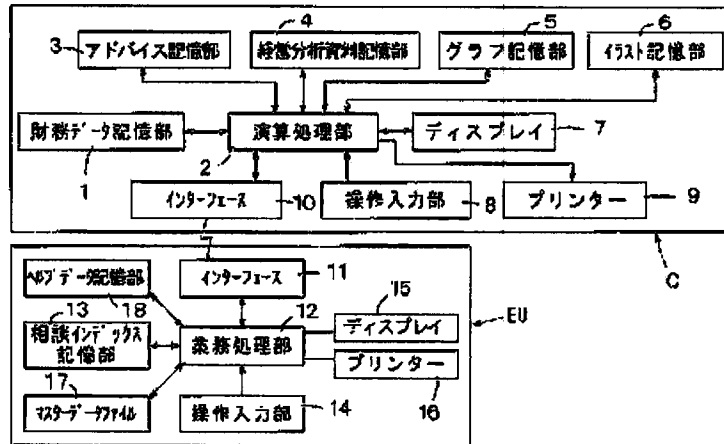
【図4】



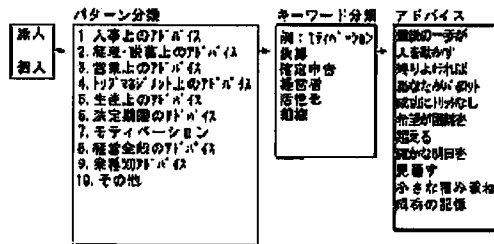
(12)

特開2000-215158

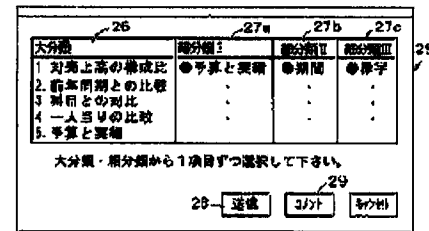
【図1】



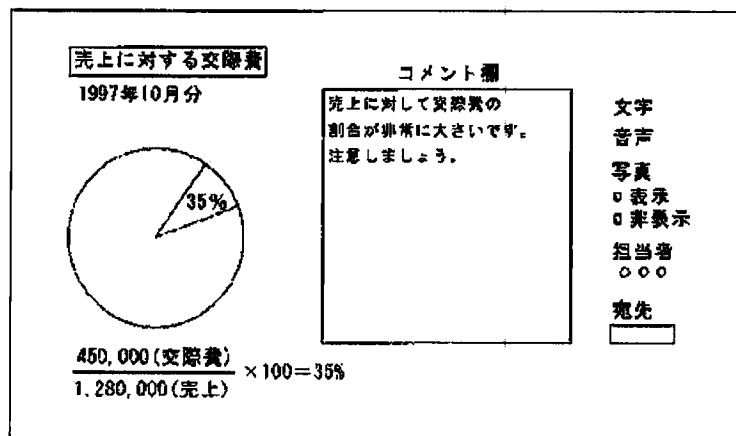
【図3】



【図5】



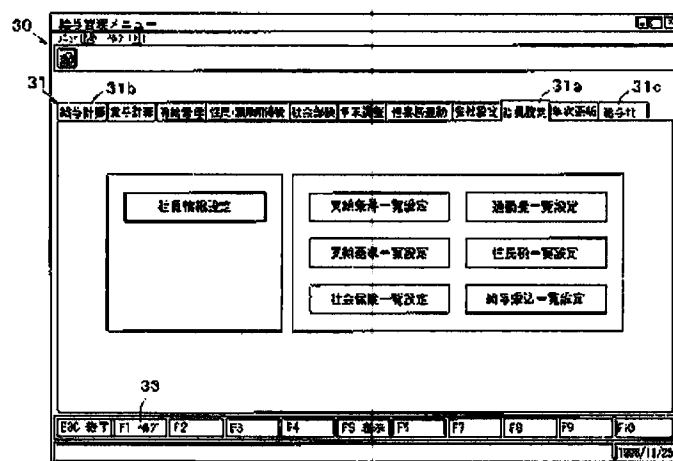
【図6】



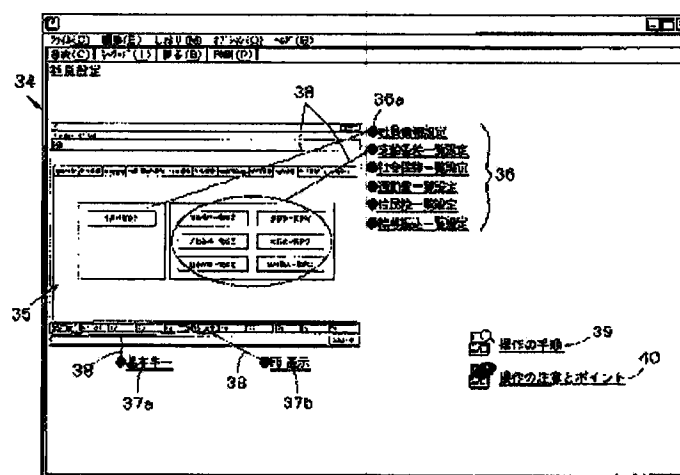
(13)

特開2000-215158

【図7】



【図8】



(14)

特開2000-215158

【図9】

